

種蓮根・種子

種蓮根を入手し、一定の条件で鉢に植え込み、栽培すると、湖沼や池、田んぼでなくとも充分立派に花を咲かせることができます。

ハスの繁殖には、種子（蓮の実）の外皮の一部を切除するか、傷つけるかの（先端、下部、側面）方法で発芽させ実生から育てる方法（新品種の作出）と、種蓮根を植え込む方法とがあります。

種蓮根の栽培は、遺伝形質が受け継がれますので毎年同品種の花を咲かせることができます。初心者は種蓮根を入手し植え込む方法がよく、比較的容易に蓮の花を咲かせ、楽しむことができます。

容器

陶鉢、ポリ容器、木材の樽等、ありますが、水が漏れる構造の物は使えません。

形状は地下茎の生育上、円形もしくは楕円形の鉢が望ましく、鉢の直径と深さは小型品種では最低でも直径 20～25 cm、深さ 20～25 cm 必要。中型や大型品種では直径 40～50 cm 深さ 30～40 cm 以上を必要とします。（土の深さは鉢の高さの約半分から 6 割を見安にします。）水を常時張っておける構造でなければなりません。水深は、小型 5cm、大型 10 cm 以上必要とします。

用土の種類

☆ 田土（荒木田）

粘りがあり、肥料が閉じ込められ徐々に効いて用土としては蓮栽培に適しているが砂が多いと翌年土が固まり、掘り起こしが少し大変になります。

☆ 畑土

やや粘りに欠け、肥料の効きが早い。砂分が多いと翌年土が締まり、掘り起こしにくい。

☆ 黒土

苔の生える黒土は、粘りが弱く肥料の効果の薄れが早い。翌年土が締まらず掘り起こしが容易である

田土（荒木田）は

一度水に溶かし、砂を除いた微粒土を使うと、翌年土が固まらず、楽々手を底に差し込めて、掘り起こしが大変楽です。1～2割ほど新たに微粒土を追加して行けば、ミネラルの補給が出来、長年連作が可能で、元肥過多にならないければ最もよい栽培土になります。

畑土は

酸性雨の多い今日、弱酸性なので、初心者が無難に使えます。（微粒成分が少なく、動植物の殻が多く含まれるため、固まりにくく、翌年の掘り起こしが容易。荒木田土を混ぜると肥料の保ちは良いが、固まりやすくなる。ピートモスを容器 50 ㍑当たり 2～5 ㍑混ぜるとこれを防げる。）

使用する場合、（ふるいにかけて小石を取り除き）シート上に広げ日光消毒後、霧吹きで湿らせ数週間袋詰めすると腐敗菌が減少し、生育に適した菌が優勢な土に変わります。

黒土は

粘度が極端に低いので、元肥効果が早く薄れ、風で葉や花茎が倒れやすいのが難点ですが、毎年 2、3 割土を捨て、新しい土を 3、4 割程追加すれば結構生育を楽しむことができます。荒木田土を混ぜると改善できますが、元肥も混ぜ込んでの植え付けは、低温期（最低気温 15℃ 以下）を避けてください。

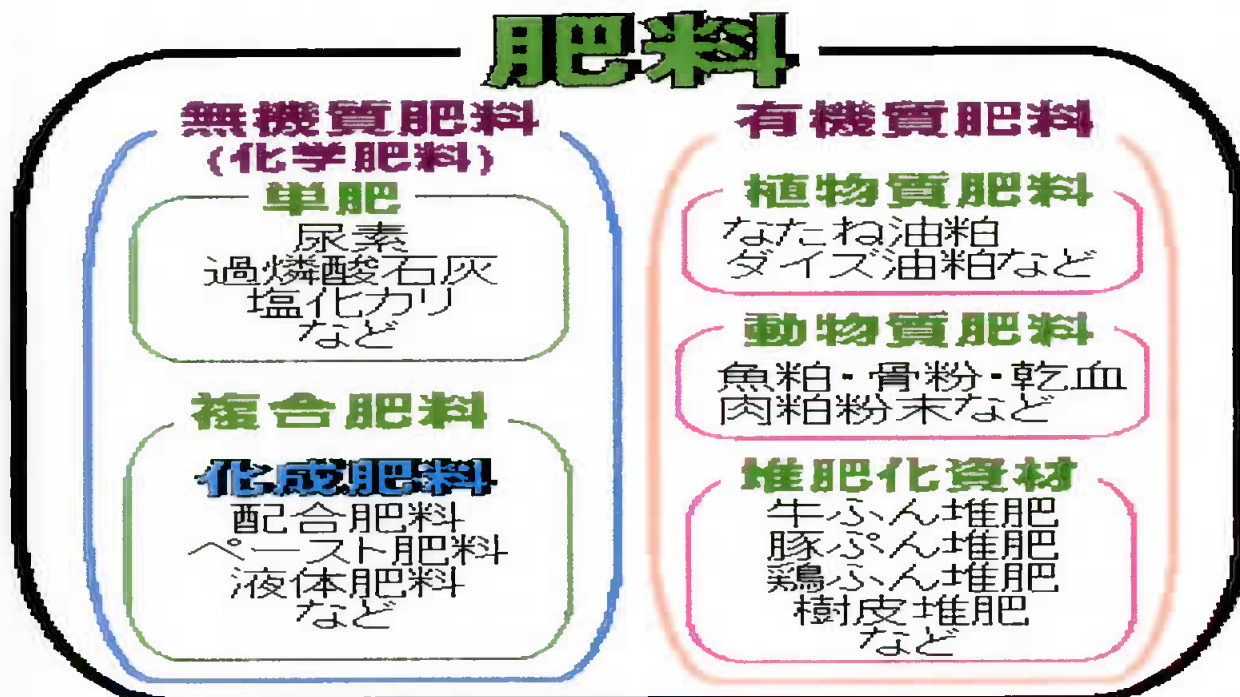
肥料及び栽培用土

蓮栽培で使用する肥料は、おもに蓮根の植え付け時に用土と、混和して使用する肥料（元肥）と、蓮の生育期間（約 5～6 カ月）に施す肥料（追肥）とに分けることができます。

元肥は、蓮根の植え付け用土の種類や使用する肥料により混和する量は違ってきます。

無機質肥料・有機肥料

肥料を分類すると無機質肥料（化学肥料）と有機質肥料に肥料分かれます。そして無機質肥料は単肥（チッソ、リン酸、カリのうち一つ成分を含んだ肥料）と複合肥料含んだ肥料と（チッソ、リン酸、カリ）のうち 2 成分以上を含んだ肥料）とに分かれます。化成肥料は無機質肥料の中の複合肥料の一つです。



園芸店に様々な種類の肥料があるが、効き目が遅いものを選ぶと失敗が少ない。使用量は50リットル容器を基準にして、配合肥料（N・P・K）は同比率の成分が含まれたもので最低50～60グラム程度あればよい。こんな都合の良い配合の肥料は一般的ではないので、幾つか配合肥料を組み合わせて作ることになる。

有機＋化成肥料

配合のバランスを変えれば、葉の背丈を低くしたり、花数を多くしたり高度な調整が可能であるが、土のpHが8以上ある場合、施肥量が過多になると根を腐敗させやすい。土の質、含有養分によって施肥量が大幅に変わるので、経験を積み、使用土による差に目安をつける必要がある。施肥量を知るため、鉢栽培実績を持つ方の使用例を参考にするのも方法である。有機＋化成肥合は効きが強いので、安易に施肥例だけを頼りにしては、失敗することがあるので、注意を要します。

家庭での花ハス栽培の要点

栽培用土

ハス栽培用土の一般的な作り方は 栽培鉢（50ℓ）、畑土使用の植え付け用土の一例をあげると、畑土7割、ピートモスか完熟腐葉土を2割、完熟堆肥1割、配合肥料（N・P・K）が同比率の成分が含まれたもので50～60gと苦土石灰50gを基本として用いる。 用土の量は約25ℓ～30ℓを目安とします。

水の管理

年間を通して水を保持しておく。植え付け後、水の深さは10cm以上に保つ。

夏期は生育旺盛で水切れがはやいので特に注意が必要である。冬季も水を保ち寒さの厳しい時期水切れしないようにする。浮草はないほうが良くできるだけ除去します。

追肥

花の蕾が上がったところに、1回目の追肥を始めます。（施肥量は約10～20gを目安に生育状況を見ながら調整をします）その後、生育の様子を見ながら半月に一度くらいの間隔で施す。

病中害防除

虫が発生したら駆除する。（アブラムシやハスモンヨウトウなどが発生する）

殺虫剤は園芸店で購入できる。

枯れ葉の除去

花や葉が完全に枯れるたら水の上5cmほどで切り取る。

花ハス栽培の年間管理と生育特性

